

令和6年度第1回（第9期第2回）武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日 時】令和6年7月5日（金） 午後6時～8時

【場 所】武蔵野クリーンセンター管理棟2階見学者ホール

【出席委員】山谷修作（委員長）、田口誠（副委員長）、坂井健司、加藤慎次郎、
原野佳美、落合勝美、古林和佳子、花輪栄一、平井真砂郎、関口道美

【事務局】ごみ総合対策課長 ほか

【欠 席】月川光子

【傍 聴】2名

【配布資料】

資料1 令和5年度取組の実施状況報告について

資料2 令和6年版事業概要（速報版）

資料3 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会最終報告書（平成30年9月）

資料4 ごみ収集頻度等見直し実施後の環境負荷等に関する効果検証について

資料5 市ごみ排出量の推移（収集頻度等見直し前後5年間：平成26年度～令和5年度）

資料6 ペットボトル資源化量の増減率（平成25年度を基準に令和4年度と比較）

資料7 第9期 武蔵野市廃棄物に関する市民会議委員一覧

1 開会

【事務局】配布資料の説明。

【委員長】開会を宣言。

2 委嘱状交付

3 委員自己紹介

4 議題

(1)令和5年度取組の実施状況報告について

【委員長】説明をお願いします。

【事務局】資料の説明。

【委員長】事務局の説明に質問はあるか。

【A 委員】ペットボトルの件に関して頂いた資料を見ていて不思議に思った。（資料2の）9ページに関する質問である。

【委員長】そちらは、この次の議題で話し合いたい。ほかに質問や意見はあるか。行動規制明けで、啓発活動などの開催回数等も増え、参加団体も増えているという状況である。クリーンセンターの運用では、リチウムイオン電池による火災への対応として、散水を行ったとのことである。私は聞いたことがあま

りないが、これは非常にいい対応であるという感想を持った。副委員長、何か御意見はあるか。

【副委員長】統計に示されているように地道な啓発などの活動を行っており、様々な面で効果を上げ、いい成果が出ているという感想を持った。

【B 委員】「チャレンジ600グラム」については、随分長くかかったが達成してうれしい。また、エコボについて、今までののはがきを用いた方法のみでは時代にそぐわないと感じていたが、電子申請が導入されたのでよかったと思う。加えて、リチウムイオン電池に水をかけるのは斬新に感じた。（武蔵野クリーンセンターで火災が起きて）消防隊が来て騒然としていたこともあったので、安心した。

【事務局】エコボについてよい評価をしていただいてありがたい。リユースについては、現在複数の民間企業にて様々な方法で物の譲り合いが行われているが、「むさしのエコボ」では、電子機器の操作が苦手な方に考慮するためアナログの方法（はがきでの応募）も残しつつ、電子の申請を導入して利便性を向上させた。その結果が申込件数の増加につながったと考えている。

【委員長】ほかに意見はあるか。特に無いようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

(2) ペットボトル毎週収集について

【委員長】説明をお願いします。

【事務局】資料の説明。

【委員長】委員全員から意見を聞きたい。

【A 委員】今説明のあった資料5と6及び資料2の9ページに記載があるように、他の資源物（古紙、びん、缶、プラ容器）は減ってきているがペットボトルは令和元年から5年にかけて排出量が増えている。収集頻度を下げると排出抑制が効いて（排出量が）減少すると思っていたが、ペットボトルについては収集を隔週にしたことの効果があまり出ていないのではないかと。今後、週1回に戻すということであれば、まずペットボトル量の排出量増加の原因を把握する必要があると考える。他市町村でもペットボトルの排出量は同様に傾向にあるようだが、原因はわかるか。

【事務局】ペットボトルの流通量の増加が原因であると考えている。

先日、本市のペットボトルの再商品化事業者の工場を視察した。そこでヒアリングしたところ、今までびんや缶で提供されていたものが少しずつペットボトルに移っているとのことであった。今までびんで売っていた調味料がペットボトルに置き換わっていること等が例に挙げられる。ペットボトルは従来に比べると非常に軽量化しており、なおかつ強度も維持されていて利便性が高いため、流通量が増加している。

【委員長】もう1つの原因として、コロナ禍による影響が強いと考えている。資料5

のとおり、ペットボトルの排出量は令和2年に激増している。これはコロナ禍による外出自粛が原因と考えられる。コロナ禍のピークは令和2～3年頃と思われるが、外出自粛の緩和・解除が行われた後も（ペットボトルの排出量は）増加しており、（ペットボトルの使用が市民の生活において）習慣化したのではないか。それを踏まえたうえで、店頭回収など発生抑制の働きかけを考える必要がある。習慣化すると排出量の減少は非常に難しいと考える。

【事務局】補足いただきありがたい。在宅ワークの普及の影響は大きいと考える。仕事ではパソコンを利用するので（飲み物がこぼれてしまうと困るため）キャップができるペットボトルは非常に便利であり、その習慣が在宅ワークでも引き継がれていたとすると、この増加は一定の整合があると思う。

【C委員】まず、市長公約の意図を教えてください。

【事務局】令和6年度の施政方針より抜粋。「これまでの市民の皆様のごみ減量と効率化へのご協力に感謝しております。ペットボトルについては、『隔週収集だと、今週はごみを出せる週なのかわかりづらい』、『毎週収集してほしい』という声が寄せられています。ペットボトルを収集日に出せないと次に出すまで大量に保管しなければならず、多くのご家庭でご苦労されているようです。コロナ禍における生活様式の変化などでペットボトルの収集量は増加し、現在もこの傾向が継続しています。これまでに『武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会』における議論、パブリックコメント等により、広く市民の皆様のご意見を伺ってきておりますので、改めてペットボトルを隔週収集から毎週収集に戻すための検討と合わせて、プラスチック製品の分別収集、資源化等の検討を始めます。」これが背景になっている。

【C委員】市長が市民の方の思いを酌み取って当該公約を掲げたことは理解できたが、これはあくまで「市長と接点のある市民」からの意見ではないか。市民がどこまで毎週収集に変えてほしいと要望しているのかは、別の基準で調査されても良いのではないか。

【D委員】先程ペットボトルの排出量の増加の理由として流通量の拡大が挙げられていた。実は、その背景にある使用済みペットボトルをめぐる国内の状況は、私も委員を務めた「武蔵野市ごみの在り方等検討委員会」（以下、「在り方等検討委員会」）が開催されていた6年前とは大きく変わっている。当時ペットボトルは、細かく砕き洗浄してフレークにして繊維業界やシート業界で再商品化されていた。ところが、5年程前から使用済みペットボトルの大部分は、またペットボトルに再商品化（「ボトル to ボトル」）されている。そのため、国内における使用済みペットボトルの価格・価値が高騰している。そのため、容器包装リサイクル協会の登録自治体が毎年減少しているほどである。自治体が収集したペットボトルは民間のリサイクラーもしくはメーカー間で奪い合っている状態なので、独自で販売している自治体が増えている。（ペットボトルの収集頻度が）隔週がよいか毎週がよいかについて私は判断

できないが、そのような状況なのでペットボトルの流通量は減りづらく今後
も増加するのではないかと。

【E 委員】SDGsの影響もあり、様々な企業が工夫して環境に配慮した製品を販売して
いる印象を受ける。最近の物価高もあり、水出し麦茶をマイボトルで持参し
たり、ペットボトルを購入場合でも500mlではなく2ℓのものを日々分けたり
といった家庭も多いのではないかと。

ただ、（当店を利用されている）お車や自転車等でお越しのお客様の動向を
見ると、使用済みペットボトルの入った大きな袋を2つか3つ開店直後の時
間帯にお持ちになり、ポイント付与のあるペットボトル自動回収機を利用さ
れているようである。（令和元年度に）収集頻度が隔週になったことも、ペ
ットボトル自動回収機の利用の習慣化の背景にある可能性も考えられる。

（ペットボトルの収集頻度は）隔週にせよ毎週にせよ、排出量の抑制が促進
されるべきであると考えます。武蔵野市の指定有料ごみ処理袋もお安くないの
で、ごみが増えればご家庭の経費増も懸念される。住みやすい環境づくりの
ため、我々販売者としては店頭回収によるリサイクルの継続も行っていきたい。

【A 委員】個人的な意見であるが、我が家は子どもが独立し夫婦2人になり、私も退
職して外出の機会が減ったのでペットボトルの購入量が圧倒的に減少した。
いつもはマイボトルを持ち歩いているが、武蔵野市の水はそのまま飲んでも
問題なく、冷たいまま飲めるのでむしろ利便性が高いように思える。ただし
先ほどの説明で、缶・びんで販売されていた商品がペットボトルに代替され
ている状況については非常に理解できた。

（ペットボトルの収集頻度が）隔週であることは、大きいサイズのペットボ
トルの購入等の工夫をするといった排出抑制効果があるため、私は隔週で十
分ではないかと考える。店頭回収に大量に持込みされるほど日常的にペット
ボトルを利用される方々には非常に不便かもしれないが、自分の生活スタイル
の見直しにもなるのではないかと考える。

また、資料を見るとプラスチック製容器包装の排出量も増加傾向ではない
か。市指定の有料ごみ処理袋での排出ではないが、買い物をした時はプラス
チック製容器包装の排出量は多く感じる。

【F 委員】（ペットボトルの収集頻度が令和元年度より）毎週から隔週に変わったこ
とで、現場においてどのような影響があるのかわかっていない。

とはいえ、今まで隔週で頑張ってきた市民のムードが沈んでしまうのではな
いか。毎週収集は便利であるが、慎重に考えたいと思う。

町内会の中でごみ収集について話をしたことがあるが、2～3人の方から
「うちはもう子供も出ていってしまったから全然問題ない」という話があり、
今のままでいいという意見もあることも事実である。店頭回収の推進を行う
方が、経費の面でも効率的なのではないかと。

また、イギリスのグリニッジでは、量り売りが行われている。ブレークスルーも含めて新しい方向性を考えるべきである。

【G 委員】 ペットボトルの収集が隔週になって5年が経ち、ようやく市民が慣れてきたところで毎週収集にするのは疑問である。我が家は子どもがいてペットボトルはそれなりに出るが、収集が隔週であるか毎週であるかで利便性が大きく変わるようには感じない。いかに市の収集にせず店頭回収を活用するかが肝心ではないか。ポイント付与のある回収機は消費者にはありがたいものだと思う。私もよく利用している。コミュニティーセンター（以下、「コミセン」）でも自動販売機を設置しているが、ペットボトル等の回収はきちんと自動販売機の業者にしていっている。収集頻度は、隔週のままでよいのではないかというのが個人的な意見である。

【B 委員】 「クリーンむさしのを推進する会」では、ごみ減量のために「マイボトル・マイカップキャンペーン」等の活動や店舗への講演会などを実施していたので、今回の市長の公約を見て驚いた。せっかく習慣ができてきたのに、（毎週収集に）戻すのは「クリーンむさしのを推進する会」としては納得できない。

使用済みペットボトルが民間企業間で奪い合いの状態なのであれば、店頭回収を推進すればよいのではないか。収集頻度は、隔週でよい。

【H 委員】 私どもは行政職員なので、市長の公約というのは非常に重いものだと思っ止めている。市は執行機関なので、推進という立場である。

ただ一方で、様々なご意見があり、簡単な問題ではないと考えている。意見をしっかりと集約したうえで市長、理事者を含め協議を行い、市民に周知する必要があると考えている。

【副委員長】 「在り方等検討委員会」にて回収の頻度を減らす決断をした背景には、ペットボトルの使用量削減の方向に社会を誘導したいという意図があったと思う。しかし、資料5と6にあるようにペットボトルの排出量の増加は認めざるを得ない。隔週収集が習慣化したといえるほど十分な期間が経っているかはわからないが、資料5と6のデータを見た時に政策の効果がなかったと見るか、啓発不足と見るかによって変わってくるように思えた。

市民の方から、（ペットボトルの）処理への需要があるということであれば、市としてはそれに応えないといけないという立場もあるのではないかなと思う。

（収集の）頻度を減らすという方法でペットボトルの使用量を削減するための啓発をしたが、それで市民にすごく不便がかかっていたり、2週間貯めることで結局今まで以上出しているというのであったりというのであれば、

（収集の）頻度に関係なく結局啓発が浸透していないのではないかな。毎週収集への是非を問われると困るが、そのような感想を持った。

【委員長】 いずれにしてもここは環境問題を審議する会議であり、委員の皆さまは環境配慮行動をとっておられる。問題は一般の市民がペットボトルの排出につ

いてどう受け止めているのか、5年前に隔週化してどの程度不便を被られているのかである。先ほどC委員からもあったように、市民アンケート調査を希望する。そして、単純に不便かどうかを問うのではなく、現状が許容の範囲なのか、改善を求めているのかまで調査してほしい。

私が住んでいる自治体では、びん・缶・ペットボトル（の収集）は隔週で、随分長く続いているので不便に感じない。（令和元年の隔週化の前に）長年毎週収集のサービスを受けてきた方々の声など、もし仮に過半数の方が元に戻してほしいと思っているのであれば、何らかの対策を講じざるを得ないと思う。この審議会で審議・検討をするために、市民意向を把握したい。ただ、アンケート調査にはお金がかかり、予算化が必要ではないか。

【H 委員】アンケートを行う場合については、その質問内容が誘導的にならないように心掛けるべきであると考えます。

【事務局】H委員からもあった通り、アンケートを行う場合は質問の聞き方について慎重に考えていく必要がある。予算の確保ももちろん行う必要がある。

【委員長】アンケートを行うのであれば、「在り方等検討委員会」で議論がなされた環境負荷軽減や収集の効率化等、隔週化を進めた背景についての説明は掲載すべきである。

また、せっかくの機会なので、ごみの収集全般について、市民意見を伺うことができれば良いのではないかと。市民意向をきちんと把握したうえでこの市民会議で検討し、取りまとめたということであれば、かなり客観的な結論を導くことができるのではないかと。

【B 委員】もし行うのであれば、早くて令和8年7月とあったが、なぜその時期なのか、また経費を教えてください。

【事務局】毎週収集を行う場合、市としては、ペットボトルを含めたプラスチック全体のことを検討するため時間を要している。「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が令和4年4月に施行され、硬質の製品プラスチックのリサイクルについては各自治体で検討する必要がある。仮に最低限1年間議論したとしても、その時点で既に令和7年、仮にそこですぐに予算措置を講じて令和8年度、さらに市民の意見を伺うことや周知の期間を考えるとそのぐらいの時期にはなるのではないかと考えている。経費については、詳細に今算出しているわけではないがざっくり言うと1.5倍以上はかかるのではないかと考えている。収集委託業者において、必要な（収集車の）台数、人員数の増加が見込まれるためである。また、新たに車両が必要となった場合のごみ収集車の納期は、通常12か月から18か月ほど要するため、こちらについても時間がかかる。

また、一般的に市民アンケートを行う場合には、無作為に年代別で行われると思う。そのようにすれば、年代別の傾向も把握できる。加えて、設問の聞き方については恣意的な質問はできないので、質問内容及び詳細な開始期間

と費用面については今後の課題としたい。

【委員長】必ずしも便利な方を市民がとると決まっていらないと思う。例えば、アンケートの中で「毎週収集は便利か不便か」という聞き方をすれば「便利だ」と回答する市民が多いと思うが、「見直しをするべきかしないべきか」等ときめ細かく聞いた場合には、「するべき」という意見が過半を上回るということとは考えにくいのではないか。

加えて、過半に達しないからそれが少数意見だということでもなく、それなりの考慮が必要であると思う。過半数に達しなかった意見に関して、西東京市の事例が挙げられる。西東京市の市指定有料ごみ処理袋は、隣接する小金井市の影響を受けたこともあり可燃ごみ用の袋の料金とプラ容器用のものの料金が同じであった。プラ容器は資源であり、なおかつゆすぐ・分別をするという手間もかかるのに可燃ごみと同じ値段をとられるということについて、もっと安くしてほしいという意見が市に寄せられ、アンケートを実施した。その結果、「安くするべき」と回答した人は48%ほどであり過半は超えていなかったが、市はその後プラ容器を含む市指定有料ごみ処理袋の値下げを行った。「安ければいい」という考えの市民が過半を超えなかったことは意外であったが、一般の市民の環境意識の高さを感じた。やはり（市民アンケートを行うのであれば）隔週化を進めた背景についての説明を記載して市民意見を集約するべきである。

【H 委員】そもそも市長は公約を掲げて選挙で当選をしているので、その公約の内容について市が市民アンケートをとるという事態が起こる。そのような事態が起こりうるのかについては、今一度確認したい。

【委員長】市の意向のとおりはこの会議がうなずくというわけではない。市の諮問に対してこの会議が検討を行うための材料として、市民意見のデータが欲しい。過半数が毎週収集を希望しているのであれば何らかの見直しは避けられないが、個人的には毎週に戻すことまでは求めないという意見が多いのではないかと予測する。

【F 委員】委員長の意見はもっともであるが、地域や年代によって意見が分かれるのではないか。また、今議論されているのは「隔週か毎週か」であるが、月3回の収集なども含めて経費を考慮したうえで考えていただきたい。

加えて、「声なき声」をアンケートに反映できるかという点まで考えると、慎重に行う必要がある。

【副委員長】例えば意見が3割と7割に割れたとして、3割の方を切り捨てていいのかというところというわけではないと思う。多くの人をカバーするようにサービスするのが市役所の使命ではないかなと思うので、意見が割れるのであれば頻度を増やしたほうがよいのではないか。

【委員長】色々なやり方があると思う。例えば、折衷案として夏に熱中症対策でペットボトルが増える6・7・8月だけ毎週にするのも1つの案である。いずれ

にせよ、アンケート調査はした方がよいと思う。

【C 委員】市民の意見を集約する方法としてアンケートも1つの手であるが、（メンバーの）選考方法をしっかりと考えたうえでグループワークを行うのも判断の基準になるのではないか。最初に意見を述べた時に「市長と接点のある市民」以外の意見も調査されたいと述べたが、グループワークにて一定の世代や、多層的に世代の人に集まってもらって意見を聞くだけでも、公約を掲げた時よりも門戸を広げた意見の集約となりうるのではないか。

【D 委員】先ほど「市長の意向で」という話があった。しかし、市長は公約を掲げたうえで民主主義に基づいた選挙で当選したという事実がある。もし市民アンケートを行って（毎週収集が）否定された場合、市長はその公約を実施できないということになるがそれは可能なのか。

【委員長】いくら公約に掲げたといっても、審議会で隔週を維持したほうが望ましいという公文書を出したのに公約を実施すればごり押しになり、市長の評価に影響してくるのでは。いずれにしても、このごみ市民会議の判断を参考にしていただきながら、最終的には市長に判断していただければいいのでは。市は制約を受けるかもしれないが、この会議が掣肘（^{せいちゆう} 傍から干渉して自由に行動させないこと）を受けるものではない。「在り方等検討委員会」の報告書もまとめてあるので、それも踏まえてこの会議では審議をするということである。

【B 委員】市長の公約には様々な政策が書かれており、ペットボトルの（毎週収集）は割と小さめに書いてあった。大きな公約のほうが重要度が高く、今までも達成できなかった公約もあったのではないか。そこまで公約に縛られなくてもよいのではないかと思う。

話は変わるが、ペットボトルはかさばって保管しづらいことが厄介なのではないか。店頭回収を行っている店舗が近所にあればよいが、店舗のない地域の住民のためにペットボトルの破砕機を設置してはどうか。破砕機でペットボトルをコンパクトにし、回収してもらったり業者に売ったりということを検討してもよいのではないか。

【委員長】ほかに質問や意見はあるか。特にないようなので次に進む。

【全 委 員】異議なし。

5 閉 会

【事務局】次回会議は11月12日（火）を予定している。

【委員長】以上で本日のごみ市民会議を終了する。

※補足事項 「廃棄物に関する市民会議」は、「武蔵野市廃棄物の抑制・再利用と適正処理及びまちの美化に関する条例第6条第1項の規定により市長が設置する会議で、同条2項の規定により資源の再利用、廃棄物の発生の抑制・減量及びまちの美化に関する基本的事項について協議するものです。